

令和3年度病虫害発生予察予報第5号(8月)

令和3年8月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻(普通期稲)	いもち病(穂いもち) 紋枯病 ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	<u>多(県下全域)</u> 多(中西、西)、やや少(東、中央) やや少(中央、中西)、少(東、西) 平年並(中央)、やや少(東、中西)、少(西) <u>多(東)、やや多(西)、やや少(中央、中西)</u> <u>多(県下全域)</u> 多(東)、平年並(中央、中西)、やや少(西) やや少(西)、少(東、中央、中西) <u>多(東、中西)、やや多(中央、西)</u>
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	平年並(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) <u>多(中央)</u>
かんきつ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>多(東)</u> 、平年並(西)、少(中央、中西) <u>多(中央、中西)</u> 、平年並(西)、少(東) <u>多(中西)</u> 、平年並(西)、やや少(東)、少(中央) <u>多(中央、中西、西)</u> 、 <u>やや多(東)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方气象台 7 月 29 日発表）

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

気温、降水量、日照時間は、いずれもほぼ平年並でしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、高い確率 40% です。降水量は、多い確率 40% です。日照時間は、平年並の確率 40% です。

週別の気温は、1 週目は、平年並または低い確率ともに 40% です。2 週目は、平年並の確率 50% です。3～4 週目は、高い確率 50% です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	30	30	40
		日照時間	30	40	30

< 気温経過の各階級の確率 (%) >

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	40	40	20
2 週目		20	50	30
3～4 週目		20	30	50

< 予報の対象期間 >

1 ヶ月：7 月 31 日（土）～8 月 30 日（月）

1 週目：7 月 31 日（土）～8 月 6 日（金）

2 週目：8 月 7 日（土）～8 月 13 日（金）

3～4 週目：8 月 14 日（土）～8 月 27 日（金）

II 病害虫発生予想

1 水稻（普通期稲）の病害虫

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 7 月の調査では、葉いちは県下全域で発生が確認されており、発生面積はいずれも平年より多かった。また、発病程度は県西部で高く、中央部と中西部でやや高く、東部で平年並であった。

(2) 8 月の気温、降水量ともほぼ平年並と予想されているため、葉いもちの発生ほ場を中心に穂いもちに移行すると見込まれる。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら、速やかに薬剤防除を行う。

(2) QoI 剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて 1 回とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) 紋枯病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中西部と西部で発生が見られ、両地域とも発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。8月の気温、降水量ともほぼ平年並と予想されていることや、幼穂形成期を過ぎるとイネの抵抗力が低下することから、既発生地を中心に病勢が進展すると考えられる。また、他の地域でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 止葉まで発病すると稔実が悪くなり、減収するので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量：やや少（中央部、中西部）、少（東部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られたが、発生面積は平年よりも少なく、発病程度も低かった。
- (2) 本病の発生は、肥切れによって助長される。8月の気温、日照時間ともほぼ平年並と予想されているため、今後、徐々に発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

4) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部、中西部）、少（西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部で平年よりもやや少なく、その他の地域は少なかった。また、発生程度は各地域とも平年よりもやや低いか、低かった。
- (2) 8月の気温、日照時間はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪化することがあるので注意する。

5) セジロウンカ

予 想 発生量：多（東部）、やや多（西部）、やや少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は東部で平年よりもやや多く、西部で平年並、中央部と中西部では少なかった。また、発生程度は各地域とも平年よりもやや低いか、低かった。

(2) 8月の気温、日照時間はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 出穂期に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度になった場合には防除する。

6) トビイロウンカ

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査では、いずれの地域も普通期稲での発生は見られなかったが、早期稲での発生面積は県東部、中央部、中西部で平年に比べて多かった。

(2) 徳島県における予察灯への誘殺は、平年に比べて著しく早い5月中旬に確認され、その後も6月中旬から7月中旬にかけて連続して見られている。

(3) 8月の気温、日照時間はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

7) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部）、平年並（中央部、中西部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は、東部で平年より多く、中央部、中西部で平年よりもやや少なく、西部で少なかった。また、発生程度は各地域とも平年並以下であった。

(2) 8月の気温、日照時間は、ほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫の吸汁による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

8) コブノメイガ

予 想 発生量：やや少（西部）、少（東部、中央部、中西部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも少なく、発生程度も低かった。その他の地域での発生は見られなかった。

(2) 8月の気温、日照時間はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となるため、発生が増加し、発生が見られていない地域でも発生するようになると考えられる。

対 策

(1) 本虫は葉色の濃いイネに多く産卵する傾向があるので、窒素過多にならないよう穂肥の施肥量に注意する。

(2) 止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

9) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多（東部、中西部）、やや多（中央部、西部）

根 拠

- (1) 7月の早期稲の調査では、県下全域で発生が見られ、県東部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部、西部では平年並であった。発生程度は県東部、中央部で平年よりもやや高く、その他は平年並以下であった。
- (2) 8月の気温、日照時間はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積、発病程度ともに平年並であった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は平年よりもやや低かった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生は見られなかった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりもやや低かった。

(2) 8月の気温は、ほぼ平年並と予想されている。高温期には本虫の増殖が緩慢となることから発生の増加は少ないが、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（東部）、平年並（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県東部と西部で発生が見られた。発生面積は、東部で平年よりも多く、西部で平年並であった。発病程度は両地域ともに平年並であった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、平年並（西部）、少（東部）

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年よりも多く、西部で平年並、東部で少なかった。発病程度は県東部と中央部で平年並、中西部と西部で平年よりもやや低かった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(西部)、やや少(東部)、少(中央部)

根 拠

(1) 7月の調査では、県中央部を除く地域で発生が見られ、発生面積は中西部が平年よりも多く、西部が平年並、東部がやや少なかった。発病程度はいずれも平年並であった。

(2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多(中央部、中西部、西部)、やや多(東部)

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部、西部で平年よりも多く、東部でやや多かった。発生程度は東部で平年よりも高く、中央部と中西部でやや高く、西部で平年並みであった。

(2) 8月の気温はほぼ平年並と予想されている。高温期には本虫の増殖が緩慢となることから発生の増加は少ないが、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.